

4 深耕と実肥により、 白未熟粒による品質低下を軽減できました！

令和7年度 試験結果紹介

深耕による高温回避技術の確立
(筑西市現地試験・「コシヒカリ」)

令和7年度 単年度試験結果 (茨城県農業総合センター農業研究所・全農受託試験)

試験区	移植日	施肥チッソ量 (基肥+穂肥+実肥)	千粒重	坪刈り 収量	整粒歩合 (目視判別)
	(月/日)	(kg/10a)	(g)	(kg/10a)	(%)
深耕+実肥	5/3	4.5+1+ <u>1</u>	21.5	565	62
普通耕+実肥	5/3	4.5+1+ <u>1</u>	21.5	524	54
普通耕	5/3	4.5+1	21.1	488	45

- ※ 深耕区の作土深は18.7cm (スタブルカルチ耕)、普通耕区の作土深は12.6cm (ロータリー耕)
- ※ 土壌の可給態窒素含量は、慣行区で20.6mg/100mg、試験区で21.1mg/100mgであり、中庸なほ場であった。
- ※ 基肥：オール14、穂肥・実肥：NK-C6、栽植密度：50株/坪
- ※ 穂肥は出穂前15日頃の7/11に施用、実肥は出穂前3日頃の7/22に施用

結果

- ・ 5cm深い耕うんと、出穂前2日頃に窒素で1kg/10aの実肥を組み合わせることで、生育は旺盛となり、登熟期の葉色も維持された。
- ・ 白未熟粒の減少によって、整粒歩合は普通耕区より17%増加。
- ・ 穂数、千粒重の増加によって、収量は普通耕区より16%増加。

深耕初年目の注意点

土壌の窒素肥沃度が低い場合

→ 生育に応じた追肥 (時期・量) で調整する。

土壌の窒素肥沃度が高い場合

→ 倒伏を防止するため、基肥を控えめにして追肥で調整する。

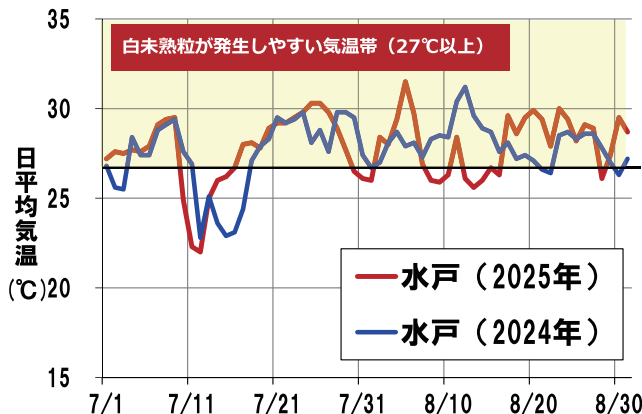
ご不明な点については、最寄りの農林事務所経営・普及部門、
地域農業改良普及センター、JAにお問い合わせ下さい。

茨城県 JAグループ茨城

1 暑さに負けない米づくり対策

令和7年産米は白未熟粒だけでなく着色粒による被害も大きい

7～8月の平均気温の推移 (水戸市)



※ 平均気温は水戸地方気象台のアメダスデータを用いた。

7月上旬の斑点米カメムシ類の発生状況

地域	すくい取り虫数 (頭/10回振り)		
	本年	平年	順位
県北	7.25	0.71	1
県央	0.83	0.27	1
鹿行	0.83	0.09	1
県南	1.42	0.41	2
県西	3.28	0.87	2
全県	2.32	0.46	2

※ 1 茨城県病害虫防除所「病害虫発生予察注意報 第1号」(令和7年7月10日公表)より改変して掲載。

※ 2 平年は平成27年～令和6年までの10年間の平均値。

- ・ 7月中旬以降、白未熟粒が増加しやすい日平均気温27℃以上の高温が続いた。
- ・ 斑点米カメムシ類の発生状況 (7月上旬) は、過去11年間で2番目に多かった。



くさび米

登熟初期の高温
水ストレス



やけ米

刈り遅れ
高水分籾の収穫



斑点米

斑点米カメムシ類
の増加
防除時期のズレ



白未熟粒

籾数過剰・低日照
登熟期の高温
登熟期の窒素不足

着色粒

- くさび米、やけ米、斑点米などの着色粒の発生が特に多かった。
- 高温による白未熟粒の発生も昨年に引き続き多い状況。

令和8年産米の1等米比率の向上に向けて

- 1 高温対策技術の実践と高温に強い品種の導入
- 2 斑点米カメムシ類の徹底防除

2 基本はこれ！ 5つの基本技術

1 品種の組み合わせによる高温リスクの回避

- 早生・中生・晩生の品種を組み合わせた栽培計画の作成
- 新規需要米（飼料用米・米粉用米等）や高温耐性品種の作付け

2 早めの中干しで茎数を抑制

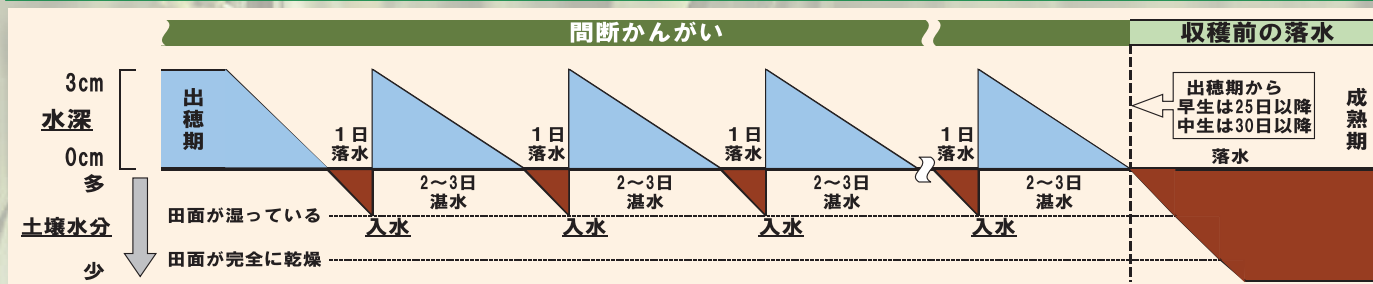
- 田植え後30～40日を目安に実施
- 「コシヒカリ」では、茎数が18本/株程度になったら開始
- 中干しは5～10日程度を目安に田面に軽くヒビが入る程度に

中干し時期の目安



3 出穂後は間断かんがいで白未熟粒の発生軽減

- 2湛1落（自然落水→田面が乾く前に入水）で根の活力維持
- 落水時期は「早生で出穂後25日～、中生で出穂後30日～」



4 適期収穫で胴割米抑制。籾の色で判断！

- 収穫は緑色の籾の割合が5～10%になったら開始
- 後半の作業が遅れる場合、全体の収穫を3日程度早めに開始
- 急激な高温での乾燥を避けて胴割米抑制

5 足元から改善！堆肥の施用と耕深の確保

- 牛ふん堆肥の施用（10aあたり乾田1t・湿田0.5t目安）
 - 15cm以上の深耕で根張りを良くして白未熟粒を抑制
- ※ 「コシヒカリ」などの倒伏しやすい品種では減肥が必要になる場合もあります。

3 プラスで実施 実肥・高温耐性品種・カメムシ対策

高温対策としての実肥のススメ

- 出穂期頃の葉色が淡くなりすぎると、白未熟粒などの発生を助長します。
- 低タンパクを目指した良食味米栽培や登熟期の一発肥料の肥効切れが、高温による品質の低下を助長している可能性があります。

出穂期頃の葉色が淡いと予想される場合は、
10aあたりチッソ1kg程度の実肥を行いましょう。



淡い葉色の様子
＜農業総合センター農業研究所 提供＞

茨城県の高熱耐性品種

- 「一番星」、「ふくまる」、「にじのきらめき」の3品種は、「コシヒカリ」や「あきたこまち」よりも高温に強い品種です。

⚠ 高温に強い品種でも、高温下では品質低下のリスクが高まるため、基本技術や高温対策技術を必ず実践し、1等米を目指しましょう。

品種	熟期※1	高温耐性	田植日※1 (月/日)	出穂期※1 (月/日)	成熟期※1 (月/日)	1等米比率※2 (%)
一番星	早生の早	やや強	5/7	7/17	8/24	76.4
ふくまるSL	早生の晩	強	5/7	7/21	8/25	80.0
にじのきらめき	中生	やや強	5/7	7/28	9/11	62.5
コシヒカリ	中生	中	5/7	7/28	9/5	45.3

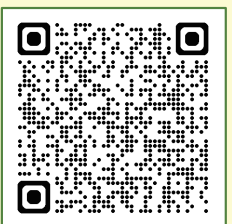
※1 茨城県主要農作物等奨励品種特性表（令和7年度版）の水戸市のデータから作成。

※2 農林水産省公表「米穀の農産物検査結果」から令和7年12月31日現在のデータを用いた。

斑点米カメムシ類の対策チェックリスト

- ☐ 出穂2週間前までの畦畔の草刈り
- ☐ 今年の発生情報の確認（茨城県病害虫防除所HP）
※実際のほ場の発生状況も確認しましょう。
- ☐ 出穂期の防除（成虫防除）→【出穂期】全茎の40～50%が出穂した日
※高温による出穂時期の早まりや、周辺と出穂時期が異なる品種は、防除時期に注意！
- ☐ 出穂期後10～15日の追加防除（幼虫防除）
※発生が多い年は、必ず実施しましょう。

茨城県病害虫防除所HP



近年発生が多いイネカメムシ